

# 「学術とスポーツのさらなる殿堂」へ

## 東京五輪、創立100周年に向けて全学で取り組む

「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を建学の精神とする中京大学が長期計画「NEXT10」を推進している。一方で、二〇二〇年の東京五輪に向けて全学的な強化体制の構築を図り、二三年には、その母体の梅村学園が創立二〇〇周年を迎える。節目を控えた学園の舵を取る梅村清英理事長に聞いた。

（聞き手／中部財界フォーラム社塚本隆代表取締役）

——理事長として二年間の歩みを振り返ってください。

**梅村** 二〇一四年から一〇年間にわたる中京大学の方向性や戦略を明確にした長期計画「NEXT10」の推進、昨年度の開学六〇周年と、一つ一つ、確実に取り組んできました。就任直前は理事長という重責を意識しましたが、おかげさまで教職員や関係者の皆さま方に支えられて、あつという間の二年間でした。「NEXT10」は、

昨年度より二三件のプロジェクトが動き出し、そのうち六件が終了し、手ごたえを感じています。

——二三年には梅村学園が一〇〇周年を迎えます。記念事業はどのように決まりましたか？

**梅村** 準備会議を立ち上げたところで、具体的にはまだこれからです。ただ、学園の記念館（博物館）を一〇〇周年に合わせて造りたいと考えています。これまで、学園の歴史を振り返り、残していくと

いう作業を怠っていました。大学については昨年の六〇周年を機に記念誌をつくりましたが、その過程で様々な発見がありました。それを形にします。

江戸時代前期に水戸徳川家の水戸光圀が「大日本史」の編さんにあたり、当時京都にいた梅村家の第四代にお声がかかり、水戸に行きました。そこで「清信塾」という塾をつくり、幕末まで活動しました。その教えを受け継ぎ、一九二三年に梅村清光が中京商業学校を開校しました。ルーツをたどれば、三〇〇年にわたり梅村家は教育に携わってきたわけです。

——その中京商業は現在の附属中京高校であり、今年も甲子園大

会での活躍が目立ちましたね。

**梅村** 新監督体制での初めての甲子園出場で、良いチームに仕上げてくれました。三回戦で敗れましたが、力を出し切ったと思います。サヨナラホームランで決まってしまう、運がなかったですね。

——国際化への取り組みは？

**梅村** これまででは中京大学における交換留学が中心でしたが、今後は中身を充実させます。単位の互換制、英語圏以外で、特にアジアの途上国との関係強化などを考えています。四月には韓国で漢西高校を運営する地山学園と学術協力と交流に関する連携協定を結びました。高校生同士の交流、スタッフの交流、中京大学への留学生の